

## 国立循環器病センター現地建替計画延期までの経緯

建替整備に関する動き		
時 期	整備計画関係	予算関係
平成16年 9月	厚生労働省に「国立循環器病センター将来構想検討委員会」を設置	
平成17年12月	同検討委員会報告書取りまとめ(計7回検討) ※新たなセンターの立地等のあり方について「 <u>現在地での建替を優先的な選択肢とすべき</u> 」	
平成18年 4月	センターに「建築委員会」を設置	
平成19年 3月	「建替基本計画」を策定  病棟の更新築整備について、次のとおり計画 ・病床数 550床 ・延床面積 62,000㎡ ・計画額 170億円  ※当初のセンター建替基本計画では、延床面積 69,580㎡、免震構造、ヘリポートの設置等を予定し、整備費を240億円で計画していたが、平成17年度の収支状況から、財政投融資借入金の償還確実性を考慮し、整備費を170億円として計画。これにより、延床面積の縮小、免震構造及びヘリポートの設置を断念。  この後、地元自治体等との調整、土地の購入並びに設計などの準備を進める	平成19年度予算額 ・不動産(借地)購入費 45億円 → 大阪府から購入 ・基本設計業務委託費 1億円 → 実施  平成20年度予算額 ・実施設計業務委託費 2億円 → 実施せず(計画延期のため)
平成20年 8月	原油価格等の高騰に伴う建築資材の高騰(平成19年7月比27%上昇)等により、物価高騰分として10億円追加し、計画額を180億円に見直し(当時の償還能力上限額)	平成21年度概算要求において、病棟更新築整備費として、計画額180億円のうち、34億円を計上(財政投融資からの借入れ。残りは22年度以降の要求計画)
9月	物価高騰分10億円を追加するも、180億円では建替基本計画を大幅に見直した後の病院建築さえも不可能となるため、センターから独法移行後の補助金・外部資金の活用を視野に建替計画延期の申出があり、 <u>延期を決定</u> (現地建替の方向性は変更なし)	計画の延期決定に伴い、平成20年度に予定していた実施設計業務委託を取りやめるとともに、平成21年度概算要求を取り下げ